

三浦半島から得られた北限記録のイッテンチョウチョウオとシマハタタテダイ

宮野功暉¹・中江雅典^{2,3}

Author & Article Info

¹ 栄光学園高等学校 (鎌倉市)

myn.kouki1010@gmail.com

² 国立科学博物館動物研究部 (つくば市)

nakae@kahaku.go.jp (corresponding author)

³ 筑波大学グローバル教育院 (つくば市)

Received 20 August 2025

Revised 22 August 2025

Accepted 24 August 2025

Published 25 August 2025

DOI 10.34583/ichthy.58.0_67

Koki Miyano and Masanori Nakae. 2025. Northernmost records of *Chaetodon unimaculatus* and *Heniochus singularius* (Chaetodontidae) from the Miura Peninsula, Kanagawa Prefecture, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 58: 67–71.

Abstract

Two chaetodontid species, *Chaetodon unimaculatus* (Bloch, 1787) and *Heniochus singularius* (Smith and Radcliffe, 1911), were collected from the Miura Peninsula, Kanagawa Prefecture, Japan. Because the previous northernmost records of both species were from the Izu Peninsula, Shizuoka Prefecture, the present specimens represent the first specimen-based records from Kanagawa Prefecture and the northernmost records for the species.

三浦半島は神奈川県南東部に位置し、東側に東京湾を、西側に相模湾を望む (山田・工藤, 2001: fig. 1)。同半島は沖合を流れる黒潮の影響を強く受けるため (工藤ほか, 1992)、その沿岸域には黒潮によって運ばれたチョウチョウオ科などの南方系魚類が多く出現することが知られる (例えば、本田ほか, 2024)。

チョウチョウオ科は、口が著しく小さい、体が側扁し体高が高い、背鰭が1基で背鰭棘数が6–16などの特徴を有することによって特徴づけられ、主に熱帯から亜熱帯の岩礁やサンゴ礁域に生息する (Burgess, 1978)。日本国内からは8属52種が知られており (本村, 2025)、そのうち三浦半島沿岸域からは4属26種が記録されている (山田, 1993; 島田, 2013; 工藤ほか, 2022; 本村, 2025)。

2023年8月から9月に第1著者が行った三浦半島での魚類相調査により、イッテンチョウチョウオ *Chaetodon*

unimaculatus (Bloch, 1787) とシマハタタテダイ *Heniochus singularius* (Smith and Radcliffe, 1911) が採集された。この2種は日本国内において、これまで本州南部から九州の太平洋沿岸および琉球列島などからの記録があり (島田, 2013; 本村, 2025)、静岡県の伊豆半島が出現記録の北限であった (伊藤, 2019)。したがって、本研究で得られた標本は、これら2種の神奈川県における標本に基づく初めての記録であるとともに、2種の北限記録を更新するものであるため、ここに報告する。

材料と方法

標本の計数・計測方法は Pyle and Kosaki (2016) にしたがった。計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位で行った。標準体長は体長または SL と表記し、計測値は体長に対する百分率で示した。鱗の観察にはサイアニンブルー溶液を用いた。脊椎骨の計数には軟 X 線撮影装置を用いた。生鮮時の体色の記載は採集時に撮影されたカラー写真に基づき、情報が不足した箇所については固定前に撮影されたカラー写真で補足した。色彩の名称は主に財団法人日本色彩研究所 (1999) に準拠した。本研究に用いた標本は国立科学博物館 (NSMT) に登録・保管されている。

Chaetodon unimaculatus* (Bloch, 1787)*イッテンチョウチョウオ**

(Fig. 1; Table 1)

標本 NSMT-P 148296, 体長 45.2 mm, 神奈川県三浦市三崎町浜諸磯, 2023年8月19日, 宮野功暉採集。

記載 計数形質と計測値を Table 1 に示した。体は側扁し、体高が高い。体の輪郭は側面からみてほぼ円形を呈する。体背縁は吻端から背鰭起部にかけて著しく上昇し、前鼻孔の前方で凹み、眼の斜め前方で膨らむ。その後、背鰭第10棘基部まで緩やかに上昇し、そこから背鰭基底後端にかけて下降する。体腹縁は下顎後端付近で凹み、臀鰭起部まで膨らみながら下降し、そこから臀鰭基底後端にかけて著しく上昇する。口は小さく端位。吻は突出し、吻長が

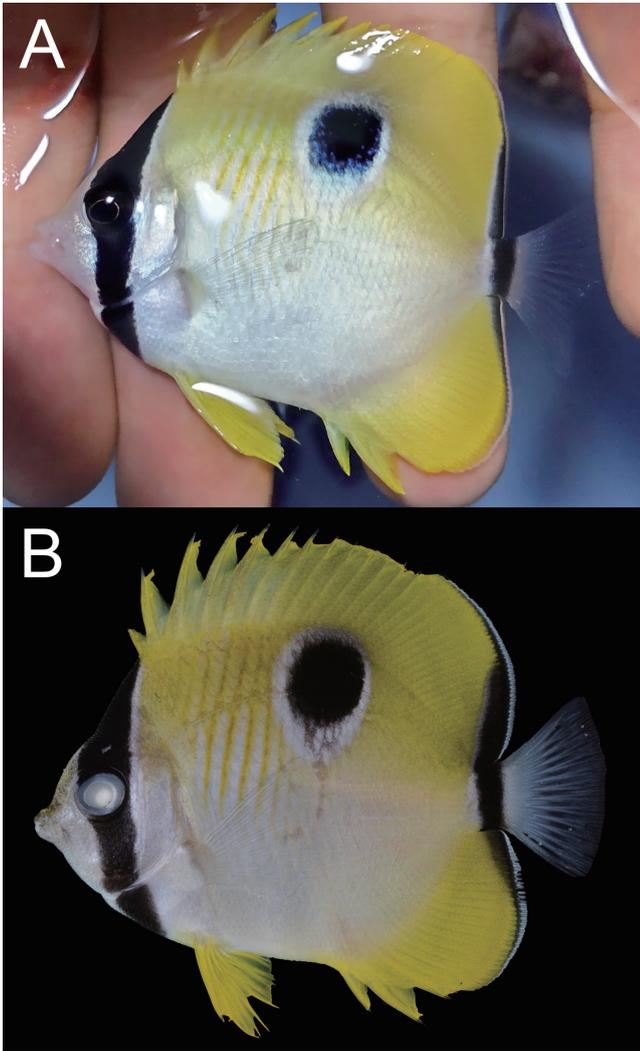


Fig. 1. Living individual (A) and fresh specimen (B) of *Chaetodon unimaculatus* (NSMT-P 148296, 45.2 mm SL) from the Miura Peninsula, Kanagawa Prefecture, Japan (right side reversed in A).

頭長の 33.1%。背鰭は起部が鰓孔上端部直上のやや前方に位置し、基底後端が臀鰭基底後端の直上に位置する。背鰭棘は第 1 棘が最も短く、第 5 棘が最も長い。背鰭棘部の鰭膜は前方のものほど深く切れ込む。背鰭軟条部は縁辺の輪郭が円みを帯び、後方の軟条ほど短い。胸鰭基底は上端が鰓蓋後端の直下および背鰭第 3 棘基部のほぼ直下に位置し、下端が背鰭第 4 棘基部のほぼ直下に位置する。胸鰭後端は背鰭第 9 棘基部直下に達する。腹鰭基底は前端が胸鰭基底前端直下に位置し、後端が背鰭第 4 棘基部直下に位置する。腹鰭は第 2 軟条が最も長い。臀鰭起部は背鰭第 8 棘基部のほぼ直下に位置する。臀鰭棘は第 1 棘が最も短く、第 2 棘が最も長い。臀鰭軟条部は縁辺の輪郭が円みを帯び、第 5 軟条が最も長い。尾鰭後縁は丸みを帯びる。側線は上方に弧を描き、体背部の黒色斑のほぼ中央を通り、背鰭基底後端付近で終わる。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 頭部と体の地色は白色で、背部は鮮やかな黄色。背鰭、腹鰭および臀鰭も体背部と同様に鮮やかな黄色。背鰭の第 8 棘基部から第 1 軟条基

部下の体背部に白色で縁どられた大きな黒色斑が 1 個ある。黒色斑より前方の体側上半部には濃い黄色の細い斜帯が 7 本ある。頭部には項部から胸部にかけて眼を通過する太い黒色横帯があり、その最大幅は眼径とほぼ等しい。左右の黒色帯は背側と腹側でつながる。背鰭と臀鰭の軟条部の縁辺は白色で細く縁どられる。白色縁の内側に黒色域があり、後方に向かうにつれて太くなり、尾柄の黒色横帯と連なり黒色帯をなす。胸鰭と尾鰭は半透明の白色。

固定後の体色 — 体の地色は薄い黄色から鈍い黄色。頭部の横帯、背鰭と臀鰭の後縁および尾柄をはしる 1 本の横帯、および体側の大きな斑は暗い焦げ茶色。体側前方上半部の細い斜帯は灰みの茶色。背鰭の第 2 棘基部から第 14 軟条基部付近および臀鰭の第 2 棘基部から第 12 軟条基部付近は浅黄色。背鰭と臀鰭のその他の部位および腹鰭は灰みの白色。胸鰭は半透明。尾鰭は基底から中程にかけて灰みの白色で、後方が半透明であり、後縁がやや薄い焦げ茶色。

分布 東インド・西太平洋の熱帯から亜熱帯域およびガラパゴス諸島に分布する (Pyle, 2001; Allen and Erdmann 2012; 島田, 2013)。日本では南日本の太平洋側に分布し、八丈島、小笠原諸島、北硫黄島、南大東島、沖縄島、与論島、沖永良部島、奄美大島、トカラ列島、屋久島、鹿児島県桜島、宮崎県南部、熊本県天草、高知県柏島、和歌山県白浜・串本、伊豆半島田子などからの記録がある (島田, 2013; 藤原, 2019; 伊藤, 2019; Motomura and Uehara, 2020; Koeda et al., 2020)。本研究によって、三浦半島南西部(神奈川県三浦市)からも記録された。

備考 記載標本は、背鰭が 13 棘 22 軟条であること、臀鰭が 3 棘 19 軟条であること、体側に白く縁取られる大きな黒色斑があること、側線が体側の黒色斑のほぼ中央を通り背鰭基底後端付近で終わること、背鰭と臀鰭の後縁および尾柄に 1 本の黒色横帯があることなどが Burgess (1978), Pyle (2001) および 島田 (2013) が示したイッテンチョウウオ *Chaetodon unimaculatus* の特徴と一致したことから本種に同定された。

工藤・山田 (2011) は三浦市三崎町油壺産の標本をイッテンチョウウオとして報告し、これが本種の三浦半島からの唯一の記録かつ本種の北限記録であった。しかし、工藤・山田 (2011: fig. 2-9) に掲載された写真の個体は、頭部の黒色帯が比較的細く、眼を通過する箇所での黒色帯の幅が眼径より狭い (vs. イッテンチョウウオでは眼を通る黒色帯の幅が眼径と同等か広い)、頭部、胸部および腹部が黄色である (vs. 白色)、体側の黒色斑が白く縁取られない (vs. 白く縁取られる)、尾柄に黒色横帯がない (vs. 黒色横帯がある) などの特徴をもつ。これらの特徴は Burgess (1978), Pyle (2001) および 島田 (2013) が示したトノサマダイ *Chaetodon speculum* (Cuvier, 1831) の特徴とよ

く一致したので、工藤・山田 (2011) の個体はイッテンチョウウオウオではなくトノサマダイに再同定された。したがって、本研究により三浦市三崎町浜諸磯で採集された標本は、標本に基づく神奈川県からのイッテンチョウウオウオの初記録であると同時に、本種の分布の北限記録を更新する。

Heniochus singularius (Smith and Radcliffe, 1911)

シマハタタテダイ

(Fig. 2; Table 1)

標本 NSMT-P 148667, 体長 33.9mm, 神奈川県横須賀市長井荒崎, 2023 年 9 月 23 日, 宮野功暉採集。

記載 計数形質・計測値を Table 1 に示した。体は側扁し、

Table 1. Counts and measurements of *Chaetodon unimaculatus* and *Heniochus singularius* from Kanagawa Prefecture, Japan.

	<i>C. unimaculatus</i> NSMT-P 148296	<i>H. singularius</i> NSMT-P 148667
Standard length (SL; mm)	45.2	33.9
Counts		
Dorsal-fin rays	XIII, 22	XII, 27
Anal-fin rays	III, 19	III, 17
Pectoral-fin rays (left/right)	14/15	15/15
Caudal-fin rays	21	20
Pored lateral-line scales	38	51
Dorsal scale rows	7	9
Ventral scale rows	18	25
Gill rakers on 1st arch	5 + 11	5 + 13
Vertebrae	10 + 14 = 24	10 + 14 = 24
Measurements (% of SL)		
Head length	32.7	36.3
Body depth	66.4	67.6
Body width	15.0	11.2
Snout length	10.8	12.7
Predorsal length	41.4	39.8
Preanal length	64.2	80.5
Dorsal-fin base length	75.9	71.1
Anal-fin base length	42.9	34.8
Orbit diameter	12.4	14.7
Interorbital width	11.7	10.0
Caudal-peduncle depth	11.9	10.6
Pelvic-fin spine length	28.1	36.9
1st pelvic-fin soft ray length	20.6	23.0
1st dorsal-fin spine length	9.7	5.0
2nd dorsal-fin spine length	15.9	8.6
3rd dorsal-fin spine length	21.5	14.2
4th dorsal-fin spine length	21.9	31.3
5th dorsal-fin spine length	22.6	26.8
Last dorsal-fin spine length	21.9	20.9
Longest dorsal-fin soft ray length	24.1	21.2
1st anal-fin spine length	12.8	11.8
2nd anal-fin spine length	20.4	18.3
3rd anal-fin spine length	17.9	22.7
Longest anal-fin soft ray length	23.9	32.7
Caudal-fin length	21.2	23.0
Pectoral-fin length	29.6	33.0

体高が高い。体背縁は吻端から背鰭第 1 棘起部にかけて著しく上昇した後、背鰭第 7 棘基部付近まで緩やかに下降し、背鰭基底後端にかけて著しく下降する。体腹縁は下顎先端から腹鰭基底までやや膨らみながら下降し、そこから臀鰭起部までわずかに凹みながら下降した後、臀鰭基底後端にかけて著しく上昇する。吻はやや尖り、吻長は頭長の 34.9%。背鰭は起部が鰓孔上端部直上のやや前方に位置し、基底後端が臀鰭基底後端のほぼ直上に位置する。背鰭第 4 棘が著しく伸長し、その長さは最短である背鰭第 1 棘の約 6.3 倍。背鰭軟条部縁辺の輪郭は円みを帯びる。背鰭軟条は第 13 軟条が最も長く、そこから後方にかけて短くなる。胸鰭基底は前端が鰓蓋後端直下よりも後方かつ背鰭第 3 棘基部のほぼ直下に位置し、後端が背鰭第 4 棘基部のほぼ直下に位置する。胸鰭後端は臀鰭起部直上に達する。腹鰭基底は前端が胸鰭基底前端直下に位置し、後端が背鰭第 5 棘基部直下に位置する。腹鰭は第 2 軟条が最も長い。臀鰭起部は背鰭第 12 棘基部の直下より後方に位置する。臀鰭は第 1 棘が最も短く、第 2 棘が最も長い。臀鰭軟条は第 6 軟条が最も長く、そこから後方にかけて短くなる。尾鰭は後縁が丸みを帯びる。側線は上方に大きな弧を描き、尾鰭基底付近に達する。

色彩 生鮮時の体色—頭部と体部は白色を基調とする。

吻端と両顎は口唇の先端（白色）を除き黒色。眼上部から眼を經由し喉部の腹縁に達する黒色横帯があり、左右の横帯は背側と腹側でつながる。頭頂部から背鰭第 2 棘基部にかけて始まる幅広い黒色帯は、鰓蓋後半と胸部を通り、腹鰭起部から腹鰭基底後端と臀鰭起部のほぼ中間点の腹縁まで達する。背鰭第 6–12 棘基部から臀鰭軟条部に達する幅広い黒色帯がある。背鰭は第 1–2 棘が黒色で、第 3–5 棘が明るい白色、第 6 棘以後の棘と軟条部下部に掛けて山吹色地に微小黒斑が密に広がり、軟条部上部では薄い山吹色を呈する。胸鰭は黄色みがかかった透明。腹鰭は黒色。臀鰭は棘部から第 3 軟条付近まで青みがかかった暗い灰色であり、他は黒色。尾鰭は基底付近では黄色地に微小黒斑が密に広がり、後方に向かって黄色の半透明となる。

固定後の体色—体の地色はベージュから黄土色。吻端と両顎および喉部はやや濃い焦げ茶色。眼と胸鰭をそれぞれ通るやや斜めの横帯および体後半の斜帯は焦げ茶色。背鰭第 1–3 棘およびそれらの鰭膜は焦げ茶色。背鰭第 4–6 棘とそれらの鰭膜は黄土色から焦げ茶色。背鰭第 7–12 棘および背鰭軟条部の下半は暗いベージュであり、背鰭軟条部の上半は白い半透明。胸鰭は白みがかかった半透明。腹鰭は濃い焦げ茶色。臀鰭の棘とそれらの鰭膜は暗い黄褐色で、軟条部は焦げ茶色。尾鰭は基底が暗いベージュで、後方へ向かい白みがかかった半透明になる。

分布 東インド・西太平洋の熱帯から亜熱帯域にかけて分布し (Pyle, 2001; Allen and Erdmann, 2012; 島田,

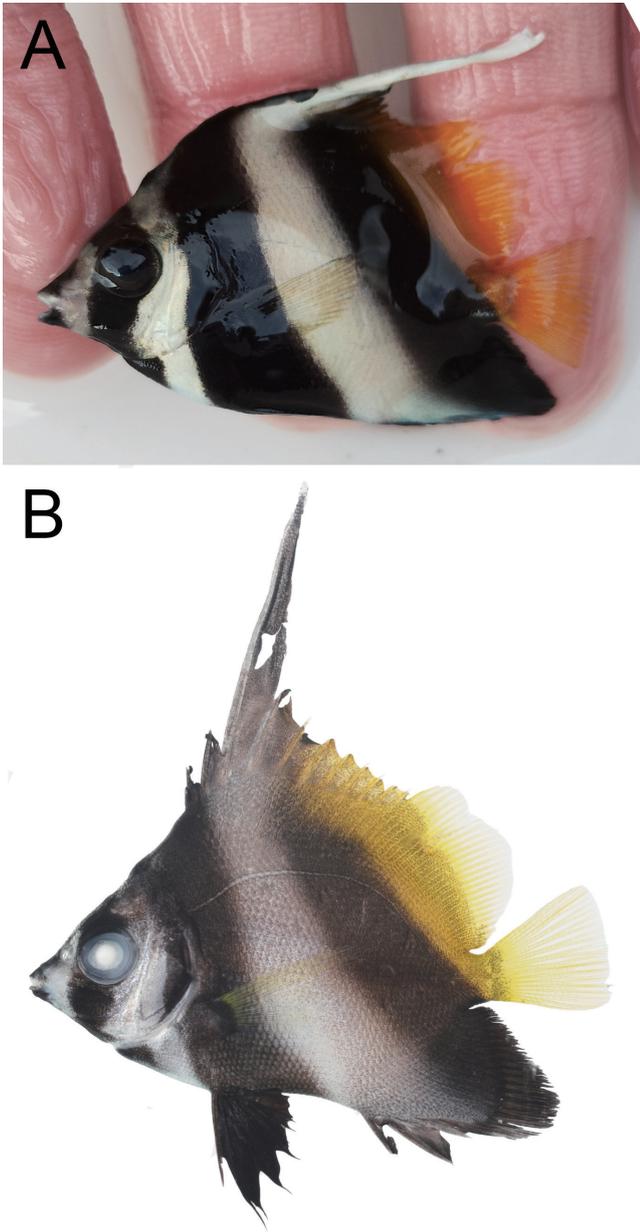


Fig. 2. Living individual (A) and fresh specimen (B) of *Heniochus singularius* (NSMT-P 148667, 33.9 mm SL) from the Miura Peninsula, Kanagawa Prefecture, Japan.

2013), 日本では八丈島, 南大東島, 与那国島, 沖縄島以南の琉球列島, 沖永良部島, 奄美大島, トカラ列島, 口永良部島, 屋久島, 種子島, 宮崎県, 佐賀県北部, 愛媛県愛南, 高知県柏島, 和歌山県串本, 静岡県沼津市大瀬崎などから記録されている(島田, 2013; 伊藤・松崎, 2014; Koeda et al., 2016; Iwatsuki et al., 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; 伊藤, 2019; 藤原, 2019; Motomura and Uehara, 2020; Motomura, 2023). 本研究によって, 三浦半島南西部(神奈川県横須賀市)からも記録された。

備考 本研究で用いた個体は, 背鰭が12棘27軟条であること, 臀鰭が3棘17軟条であること, 背鰭第4棘が伸長すること, 側線が尾鰭基底付近に達すること, 吻端が黒いこと, 眼を通る黒色帯が頭部腹面まで達することなど

が Burgess (1978), Pyle (2001) および島田 (2013) が示した *Heniochus singularius* の特徴と一致したことから本種に同定された。

本種は相模湾にも出現するとされている(島田, 2013; 本田ほか, 2024)。ただし, 島田 (2013) は神奈川県葉山町一色芝崎で撮影された幼魚の写真記録(KPM-NR 80248)に基づくものであり(島田和彦氏, 私信), 本田ほか (2024) は松岡 (1972) の伊豆半島南東部の静岡県下田市白浜の竜宮島付近で採集された個体に基づくものである。駿河湾では, 伊豆半島の沼津市大瀬崎からの写真に基づく記録がある(伊藤, 2019)。よって, 標本に基づく本種の従来の北限記録は下田市白浜の竜宮島付近であり, 三浦半島南西部(神奈川県横須賀市)で採集された本研究の標本は本種の標本に基づく北限記録であると同時に, 神奈川県からの初記録となる。

謝 辞

宜野湾市在住の島田和彦氏にはシマハタタテダイの神奈川県における記録を教示いただき, 横浜市在住の山田匠馬氏には荒崎付近の熱帯性魚類についての有益な助言をいただいた。匿名の査読者には本稿の改訂にあたり適切な指摘をいただいた。ここに記し, 厚くお礼申し上げる。

引用文献

- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1–3. Tropical Reef Research, Perth. x + 1292 pp.
- Burgess, W. E. 1978. Butterflyfishes of the world. A monograph of the family Chaetodontidae. T. F. H. Publications, Neptune City. 832 pp.
- 藤原清司・瀬能 宏・中江雅典(編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録(改訂). 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), 53: 127–218.
- 伊藤勝敏. 2019. 伊豆の海 海中大図鑑. 第6版. データハウス, 東京. 377 pp.
- 伊藤辰徳・松崎 馨. 2014. 2013年に佐賀県北部で採集されたチョウチョウオ科魚類. 佐賀自然史研究, 19: 53–55.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University, 43: 27–55.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- Koeda, K., M. Aizawa, K. Sakamoto and R. Ueshima. 2020. Report on the specimens of family Chaetodontidae (Teleostei: Perciformes) deposited in the Department of Zoology, the University Museum, the University of Tokyo with comments on distributional shifted in these 100 years. The University Museum, the University of Tokyo Material Reports, 128: 65–84.
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. vi + 120 pp.
- 工藤孝浩・阿部 久・山田和彦. 1992. 三浦半島南西部沿岸域の魚類— II. 神奈川県自然誌資料, 13: 39–44.

- 工藤孝浩・山田和彦. 2011. 三浦半島南西部沿岸の魚類－VII. 神奈川県自然誌資料, 32: 135–141.
- 工藤孝浩・山田和彦・三井翔太・門田高太・瀬能 宏. 2022. 三浦半島南西岸魚類目録. 神奈川県自然誌資料, 43: 97–142.
- 松岡玳良. 1972. 伊豆下田白浜竜宮島付近の磯に見られる魚類. 静岡県水産試験場研究報告, 5: 89–111.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250.
- 本村浩之. 2025. 日本産魚類全種目録 これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 32. [URL](#) (1 Aug. 2025)
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 12: 1–125.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo*, 52: 205–361.
- Pyle, R. 2001. Chaetodontidae, pp. 3224–3265. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5.* FAO, Rome.
- Pyle, R. L. and R. K. Kosaki. 2016. *Prognathodes basabei*, a new species of butterflyfish (Perciformes, Chaetodontidae) from the Hawaiian Archipelago. *ZooKeys*, 614: 137–152.
- 島田和彦. 2013. チョウチョウウオ科, pp. 990–1004, 2022–2025. 中坊徹次(編) *日本産魚類検索 全種の同定. 第3版.* 東海大学出版会, 秦野.
- 山田和彦・工藤孝浩. 1993. 神奈川県三崎魚市場に水揚げされた魚類・IV. 神奈川県自然誌資料, 14: 49–52.
- 山田和彦・工藤孝浩. 2001. 三浦魚市場に水揚げされた魚類・X. 神奈川県自然誌資料, 22: 43–50.
- 財団法人日本色彩研究所. 1999. *色名小辞典. 改訂版 (第16刷).* 日本色研事業株式会社, 東京. 92 pp.